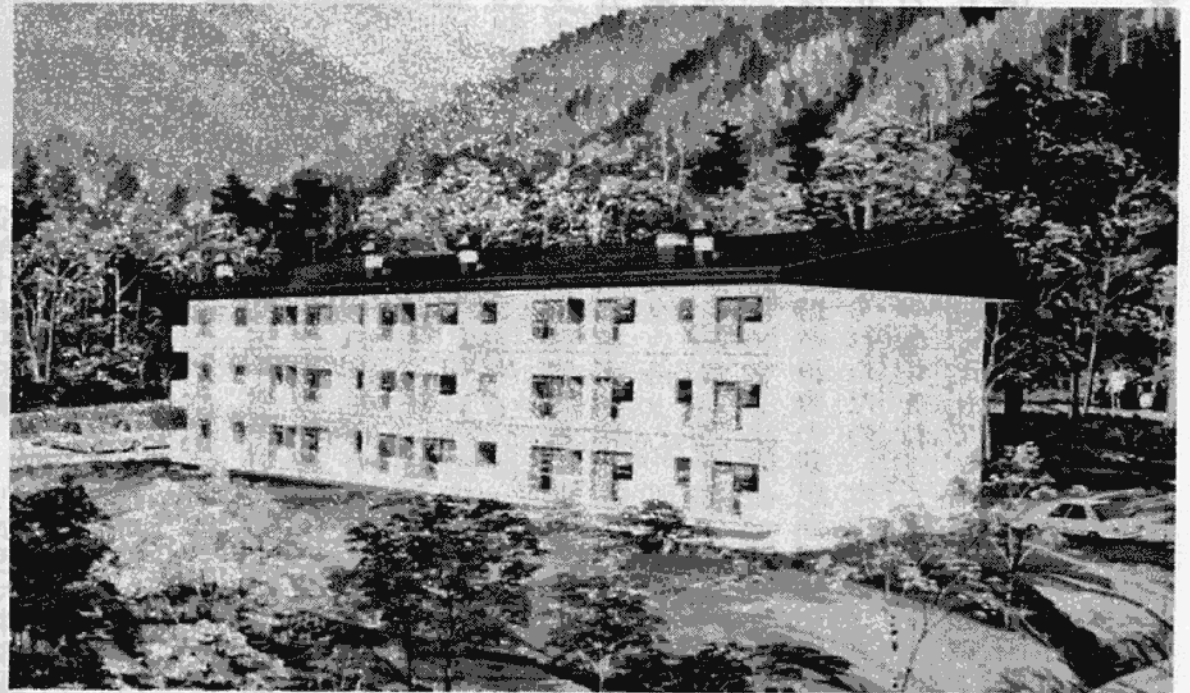


# 湯元に中層市営住宅建設 寒冷地向きに設計



湯元に建設が決まった中層住宅の完成予想図

人口の定着化をねらいとして、湯元に市営住宅建設の計画が進められていましたが、このほど、その設計ができあがり、昭和五十六年春完成をめざしてまもなく工事が始まります。

建設する場所は、湯元晃林荘近くの国有林約二千八百平方メートルを営林署から借受けるもので、総工費一億三百七万円（本体工事八千四百万円、給排水衛生設備工事千二百六十万円、電気工事六百四十七万円）を投じて作られるも

湯元に建設が決まった中層住宅の完成予想図です。

住宅の構造は、中層耐火構造（鉄筋コンクリート造）三階建十二戸で、一戸当りの床面積は六三・五五平方メートル（六畳一間・洋間DK）です。また、入居者の利便を考え、ガス集中管理方式を取り入れたり、FF暖房が使用できるよう設計されています。特に、湯元地区は多雪地帯のため、これまでの市営住宅より屋根を急な勾配にし雪害対策に配慮がはらわれています。

## デラックスバスが二台に

### 活躍する「市民号」

市民の見学や研修会などに便利な足として活躍している市民号の二号車が、六月五日にデラックスなバスに更新されました。

新しい市民号の定員は五十人、座席はリクライニング式で冷暖房つきですから快適な旅が楽しめます。ボデーカラーは、日光のキャッチフレーズであるグリーン日光、グリーン日光にふさわしく、緑、赤、紺、白の四色で、緑は杉並木と新緑の日光連山、赤は神橋とお宮、紺は湖と大谷川を表わしています。

二台そろった市民号



## 神戸喜重氏逝去



前日光市議会副議長、神戸喜重氏は、六月三十日、入院中の古河日光総合病院で逝去されました。

神戸氏は、昭和三十八年五月から五十四年四月まで、市議四期を努め、この間、副議長、建設常任委員長を歴任するなど、議会活動に活躍されました。

## 栃の葉国体

### キャラバン隊来晃

五月二十六日、栃の葉国体県民運動推進キャラバン隊が日光市を訪れました。これは、県民総ぐるみで栃の葉国体を成功させるため、開会百五十日前を記念して、訪れたもので、市役所前の広場で、県警音楽隊が栃の葉国体音頭を演奏したほか、国体開会式の集団演技に参加する三十五名が、国体音頭や日光和楽踊りを披露し、栃の葉国体の成功を呼びかけました。

湯殿山を参詣して男体山頂へ、あるいは御婆様に参詣して月山、大郎山へと登拝をしました。この人達は、まず裏見の滝にある荒沢不動尊で、滝の水垢離を取り、籠堂で精進潔済をして、お山へ出発したのです。お山まで登らない人達は、ここで修行をして、遥拝をして帰りました。

元禄二年（一六八九）奥の細道行脚で、日光を訪れた芭蕉も裏見の滝に参詣し、

哲時は滝に籠るや夏の初と、夏行参籠の句を残しています。

それまで、砂子沢と呼ばれていた沢が、荒沢と改称され、地図にも記入されるようになり、荒沢不動尊の尊号は、いつのまにか「荒れる沢」という意味の沢の名称として伝えられてしまいました。久次良地区の一面に、精銅所の社宅街ができ、荒沢の名を取って清滝荒沢町となりましたが、その後町名改正で「荒沢」は「安良沢」と改められています。

歳月の流れとともに、その由来を忘れられようとしていた荒沢不動尊も、八年前から安良沢町ゆかりの不動尊として、地区の有志によって、春秋の二回、縁日が開かれるようになりました。

（律院住職 中川光薫）